

まち歩きマップのルート設定と歩行環境に関する研究

松本 光永

1. 研究の背景と目的

近年、多くの自治体やまちづくり団体がウォーキングによる健康増進や地域資源の有効活用、まちの魅力の再認識を目的としたまち歩きマップを発行し、地域振興を図っている。

市民の間でも健康志向からウォーキングや散歩が手軽にできる運動として一般化し、旅行先でも自分の足で歩いて、その地域の魅力を楽しむという観光スタイルを好む人々が増えていることもまち歩きマップ増加の要因と考えられる。

まち歩きマップに掲載されるルートにはそれぞれテーマが与えられ、地域の歴史や自然の見所となる場所を通るように設定されている。また、マップ作成の際にはまち歩きワークショップを開くなど地域住民の意見を取り入れることで日常の中にあるまちの魅力が紹介されているだけでなく、歩きやすさや安全性にも配慮されていると考えられる。本研究では、このような特性を持つまち歩きマップを分析することによって、まち歩きに適した目的地や歩行環境の特徴を明らかにし、地域の潜在的な魅力の再発見や、新たにまち歩きルートを作成するための基礎的知見を得る事を目的とする。

2. 研究の方法

2-1 研究の対象

研究の対象は福岡生活圏^{注1)}のうち佐賀県鳥栖市および基山町を除いた14市14町で発行されている歩行ルートが地図上に示されている観光パンフレット、まち歩きマップ、ウォーキングマップを研究の対象とする。本研究では上記3つを総称してまち歩きマップとする。

2-2 研究の方法

研究のフローを図1に示す。まず、研究対象地域内で発行されているまち歩きマップの収集を行う。次にマップ単位での分析を行い、マップの発行状況を明らかにする。

続いてマップに掲載されているコースについての分析を行う。コースの全長や形態、始点と終点の場所、コース上で紹介されている場所を集計し、まち歩きコースの特性を明らかにする。また各コースについて

テーマによる分類を行い、得られたデータとのクロス集計によってどのようなものが街の魅力としてとらえられているかを明らかにする。

その後、都市的要素の多い福岡市中央区のまち歩きマップを対象として、目的地や歩行環境から分類を行う。さらに、各分類の代表的なコースの特徴をチャート化による比較分析と現地調査から明らかにする。

3. まち歩きマップの発行状況

3-1 まち歩きマップの収集

研究対象となるマップは、以下の3つの方法で収集した。①自治体に問い合わせ、郵送してもらう。②観光案内所など配布場所で直接入手する。③ホームページ上に公開されているものをダウンロードする。

3-2 マップ発行状況

自治体別収集マップ数と掲載コース数を表1に示す。全体を見るとマップ数は70であり、これは地図上に歩行ルートが示されているマップの数である。集計は冊子、リーフレット単位で行っている。自治体別マップ数をみると福岡市中央区が15と最も多く、福岡市西区の12、久留米市の10と続く。マップ数の多い自治体はマップがリーフレットの形態をとっている。

続いて、コース数についてみると福岡市東区が156と最も多く、次に福岡市西区92、福岡市中央区49と続き、福岡市内で盛んにまち歩きマップの作成が行われている。

マップの発行主体について集計したものを表2に示す。自治体と地域住民からなる協議会を設けて作成を行うケースが最も多く、まち歩きマップには地域住民の意見が取り入れられていることがうかがえる。次に多いのが自治体の健康・福祉部門で、誰でも手軽に出来る健康増進法としてウォーキングの普及

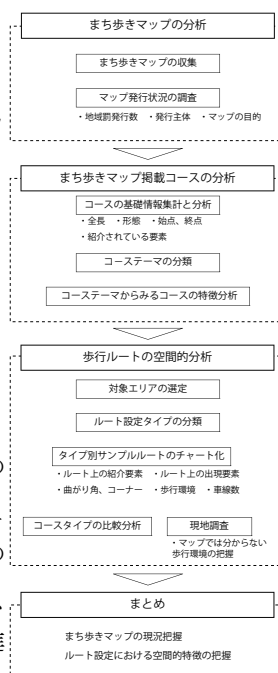


図1 研究のフロー

をうかがわせる結果となった。

4. まち歩きコースの特徴

4-1 まち歩きコースの物理的特徴

まち歩きマップに掲載されているコースはその経路によって以下の3つに分類できる(図2)。**①始点から別の場所への片道を経路とする「片道型」、②始点と折り返し地点の間を同じ経路で往復する「往復型」、③始点と終点の位置がほぼ同じ位置で往路、復路が違う経路となる「回遊型」**である。

このコースの形態分類とコースの全長との関係を表3に示す。コース形態では回遊型が339と大半を占めており、歩いていて飽きない工夫をしている。また、始点と終点が一致するコースが好まるのが分かる。コースの全長では2km以上4km未満のコースが全体の47%を占め、まち歩きコースの主流となっている。

コース形態別にみると片道型では3km未満のコースが多く他と比べて短い傾向がある。一方で10km以上という長距離コースもみられる。これはコース以外の移動には交通機関の利用を想定しているためと考えられる。往復型の特徴としては長距離コースが少ないことが挙げられ、同じ道を長距離に渡り往復することは歩行コースに適さない。

4-2 まち歩きコースの始点と終点

まち歩きコースには始点と終点を指定されることが多く、指定された場所は利用する人々にとって分かりやすい場所や目的地と

して魅力的な場所が選ばれていると考えられる。各コースについて始点と終点の分類集計を表4に示す。公民館・集会所が最も多く、地域コミュニティの中心として住民に広く知られた場所が選ばれている。次に公園・広場が多く、歩いた後に休憩

表2 マップの発行主体

自治体	健康・福祉	10
	商工・観光	1
	企画	3
	教育	1
協議会		23
民間団体	商工会	5
	市民ボランティア	2
	大学	1
	その他	4
合計		50

表1 自治体別マップ発行状況

市区町	マップ数	コース数
東区	2	156
博多区	1	7
中央区	15	49
南区	7	28
西区	12	92
早良区	3	22
城南区	1	8
久留米市	10	12
春日市	8	8
宗像市	1	11
古賀市	2	11
福津市	1	3
岡垣市	1	11
朝倉市	1	3
二丈町	1	24
志摩町	1	15
那珂川町	1	6
志免町	1	17
粕屋町	1	5
合計	70	488

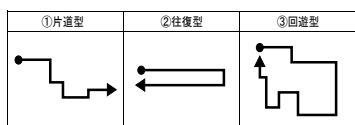


図2 コースの形態分類

できる場所、歩く前に準備運動をする場所として選ばれている。大別でみると公共施設に次いでバス停や駐車場など交通施設が多く選ばれておりコース前後の移動について考慮がなされている。

4-3 まち歩きコース上の紹介要素

まち歩きマップには見所として写真や説明文をいれて紹介している樹木や建物などがある。これらを紹介要素とする。表5に紹介要素の分類別集計と1コースあたりの数を示す。「自然、緑」と「神社、仏閣、史跡」が大きな割合を占めており、このような場所がルートにおける魅力ある目的地として捉えられている。また、コース平均でも2.01、1.63と1を超えている。

4-4 まち歩きコーステーマ

まち歩きコースにはそれぞれに特徴を持たせるために立ち寄る場所や通過する場所などからコーステーマが設定されている。各コースのタイトルと説明文からテーマを分類し、マップの目的との関連性を分析する(表6)。コーステーマでは「汐風コース」や「多々良川バードウォッチングコース」など水辺や植物といった自然系のコースが244と最も多く、次に「香椎史跡コース」、「万葉歌碑コース」など歴史系テーマが多い。マップ目的との関係に注目すると、観光を目的としたマップではほとんど自然系のテーマはみられず、歴史系や文化系に集中している。逆に、健康を目的としたマップでは自然をテーマとしたコースが多い。

表3 コース形態と全長の関係

全長	片道型	往復型	回遊型	全体
1km未満	6 6.5%	5 1.5%	12 3.5%	23 4.7%
1km~2km未満	20 21.7%	11 19.3%	42 12.4%	73 15.0%
2km~3km未満	27 29.3%	10 17.5%	86 25.4%	123 25.2%
3km~4km未満	13 14.1%	12 21.1%	83 24.5%	108 22.1%
4km~5km未満	9 9.8%	11 19.3%	51 15.0%	71 14.5%
5km~6km未満	7 7.6%	6 10.5%	34 10.0%	47 9.6%
6km~7km未満	1 1.1%	1 1.8%	15 4.4%	17 3.5%
7km~8km未満	2 2.2%	1 1.8%	9 2.7%	12 2.5%
8km~9km未満	1 1.1%	0 0%	3 0.9%	4 0.8%
9km~10km未満	1 1.1%	0 0%	0 0%	1 0.2%
10km~	5 5.4%	0 0%	4 1.2%	9 1.8%
合計	92 100%	57 100%	339 100%	488 100%

表4 コースの始点と終点

大別	分類	始点	終点
自治体	公民館・集会所	69 14.1%	65 13.3%
	役所・公共施設	34 7.0%	29 5.9%
	学校	12 2.5%	15 3.1%
	公園・広場	38 7.8%	45 9.2%
民間団体	バス停	22 4.5%	20 4.1%
	駐車場	17 3.5%	17 3.5%
	駅	16 3.3%	18 3.7%
	橋	25 5.1%	24 4.9%
協賛	交差点・踏切	13 2.7%	10 2.0%
	神社・仏閣・史跡	27 5.5%	27 5.5%
	ランドマーク(岩・樹木)	4 0.8%	6 1.2%
	商業施設	10 2.0%	10 2.0%
その他	その他	9 1.8%	10 2.0%
	指定無し	192 39.3%	192 39.3%
	合計	488 100%	488 100%

表5 コース上紹介要素

分類	紹介要素数	コース平均
自然、緑	983 42.6%	2.01
神社、仏閣、史跡	797 34.6%	1.63
商業施設	174 7.5%	0.36
公共文化施設	206 8.9%	0.42
街並み	29 1.3%	0.06
アート	23 1.0%	0.05
構造物	80 3.5%	0.16
その他	13 0.6%	0.03
合計	2305 100%	4.72

5 歩行環境としてのまち歩きコース

5-1 分析の対象

本章ではまち歩きコースの歩行環境について分析を行う。分析対象は都市的要素の集積がみられる福岡市中央区の49コースとした。

5-2 コースタイプ分類

対象コースを紹介要素の設定と、通過する経路の環境から下記の5つのタイプに分類した(表7)。

「テーマ要素回遊型」は特定のテーマに沿った紹介要素を巡るタイプである。自然や歴史だけでなく、天神地区のアーケードをめぐるコースやビルから街を見渡すことができる場所を巡るコースなどがある。「目的地設定型」とは主たる目的地となる場所が設定され、それに向けて歩くタイプであり、博多ポートタワーや鴻巣山の展望台、寺塚穴観音古墳や友泉亭公園など文化財が目的地となる場合が多い。「快適歩行環境型」は大きな公園や並木道、川沿いの道など快適な歩行空間を主な経路としているタイプである。大濠公園や梅光園緑道、百道浜を通るコースがある。

上記3つを基本とし、「テーマ要素回遊型」と「快適歩行環境型」を合わせたものを「複合型 i」、「目的地設定型」と「快適歩行環境型」を合わせたものを「複合型 ii」とする。

表6 コーステーマとマップ目的の関係

テーマ	観光		健康		地域学習		総計	
自然系	2	6.1%	207	53.8%	35	50.0%	244	50.0%
水辺	1	3.0%	82	21.3%	17	24.3%	100	20.5%
植物	1	3.0%	42	10.9%	2	2.9%	45	9.2%
動物	0	0%	9	2.3%	2	2.9%	11	2.3%
公園	0	0%	25	6.5%	0	0%	25	5.1%
眺望	0	0%	20	5.2%	2	2.9%	22	4.5%
自然全般	0	0%	29	7.5%	12	17.1%	41	8.4%
自然歴史複合	7	21.2%	29	7.5%	2	2.9%	35	7.2%
歴史系	18	54.5%	47	12.2%	31	44.3%	99	20.3%
神社・仏閣	4	12.1%	9	2.3%	2	2.9%	14	2.9%
遺跡・碑	3	9.1%	0	0%	1	1.4%	8	1.6%
町並み	7	21.2%	22	5.7%	18	25.7%	44	9.0%
歴史全般	4	12.1%	16	4.2%	10	14.3%	33	6.8%
文化系	6	18.2%	2	0.5%	1	1.4%	9	1.8%
買い物・食事	5	15.2%	2	0.5%	0	0%	7	1.4%
アート	1	3.0%	0	0%	1	1.4%	2	0.4%
その他	0	0%	35	9.1%	1	1.4%	36	7.4%
なし	0	0%	65	16.9%	0	0%	65	13.3%
総計	33	100%	385	100%	70	100%	488	100%

表7 コースタイプの分類

コースタイプ	モデル	説明	キーエレメント 抽出要素	コース例	数
1 テーマ要素回遊型		歴史、自然、文化など1つのテーマに沿った要素を主に巡るタイプ。	彫刻、桜、橋、眺望、神社、仏閣、記念碑	唐人町城下まちコース 桜コース 天神再発見コース	8
2 目的地設定型		コースの主目的となる要素と出発点を結ぶ経路がコースとなるタイプ。	目的地	海風コース 友泉亭往復コース 平尾山荘コース	5
3 快適歩行環境型		コースの大部分が公園内、水辺、緑道など一定範囲の快適な歩行環境を有するタイプ。	快適歩行環境	きらめきコース 緑道往復コース シーサイドコース	16
4 複合型	i	上記1と3を複合したタイプ。テーマに沿った要素を巡る経路に快適な歩行環境を有する。	テーマ+快適歩行環境	舞鶴公園周遊コース 緑の探検おすすめコース 那珂川橋巡りコース	7
	ii	上記2と3を複合したタイプ。目的地が公園など快適な歩行環境の中にある。	目的地	西公園コース 大濠公園コース 動物園探検コース	8
5 その他		上記4つに属さないタイプ。特定のテーマに沿った要素の抽出、目的地、特徴的な経路がみられない。		道草コース 福浜周回コース 谷コース	5

5-3 チャート分析

コースの始点から終点に至るまでの道のりの特徴を把握するためルート上に現れる要素や歩行環境について調査、図化し、分析を行った。本梗概では紙面の都合上2つの事例について述べる。調査項目を表9に示す。「紹介要素」はルート上で写真や説明がある要素、「出現要素」は説明などはないが名称が示されている要素である。これらは要素の種類によって5つに分類されている。

「テーマ要素回遊型」の唐人町城下まちコースを図化したものを図3に示す。出発地点がある唐人町商店街のアーケードを抜けると水路のある黒門川通りに入る。この通りに沿って歩き、水路の切れる600m付近から次々と歴史系紹介要素が現れる。低層の建物越しに見える大圓寺五重塔がランドマークとなっており、現在位置が把握しやすい。また、商店街や住宅街の細かい路地を通るので歩道は少ないが自動車の通行が少なく安全性の高いルートといえる。「目的地設定型」の海風コースを図化したものを図4に示す。紹介要素は目的地となるポートタワーのみであり、途中、中央卸売市場や福岡市民会館が現れる。那の津大橋からは水辺の車線数の少ない通りを歩く。ある港をから水辺のルート上は歩道が整備されているが100m以降では狭かったり、車の通りが多いなど歩行に適さない箇所もみられた。

5-3 コースタイプ比較

3つのコースタイプについてそれぞれ代表的な2コースを選び、1kmあたりの紹介要素数、出現要素数、方向転換回数、ルート上の歩道率、緑化率、水辺率、被屋率、平均車線数を比較する(表10)。

テーマ要素回遊型は全長が短くなる傾向があり、紹介要素や出現要素が集積している。そのため頻繁に方向転換を行うことも特徴といえる。

目的地設定型は他と比べて平均車線数が高いことが特徴である。目的地までの経路として大通りに沿った道路を設定し、道順がわかりやすいようしている。方

表8 調査項目 表9 コースタイプ比較

調査項目	コースタイプ		目的地設定型		快適歩行環境型	
	歴史系	自然系	歴史系	自然系	歴史系	自然系
コース名	唐人町城下まちコース	天神再発見コース	海風コース	平尾山荘コース	きらめきコース	シーサイドコース
全長(m)	1730	2200	4600	2347	3515	7007
紹介要素数(/km)	6.36	4.09	0.43	1.28	0.57	0.43
出現要素数(/km)	0.59	3.64	1.09	0.43	1.42	1.57
方向転換回数(/km)	8.10	9.55	2.61	3.41	2.84	1.28
歩道率(%)	35.3	100.0	97.0	79.3	84.6	100
緑化率(%)	10.3	86.4	63.0	87.5	87.9	93.8
水辺率(%)	26.6	0	29.0	13.9	40.3	49.5
被屋率(%)	10.3	10.0	0	0	0	0
平均車線数(車線)	1.6	2.6	2.5	2.2	1.4	1.7

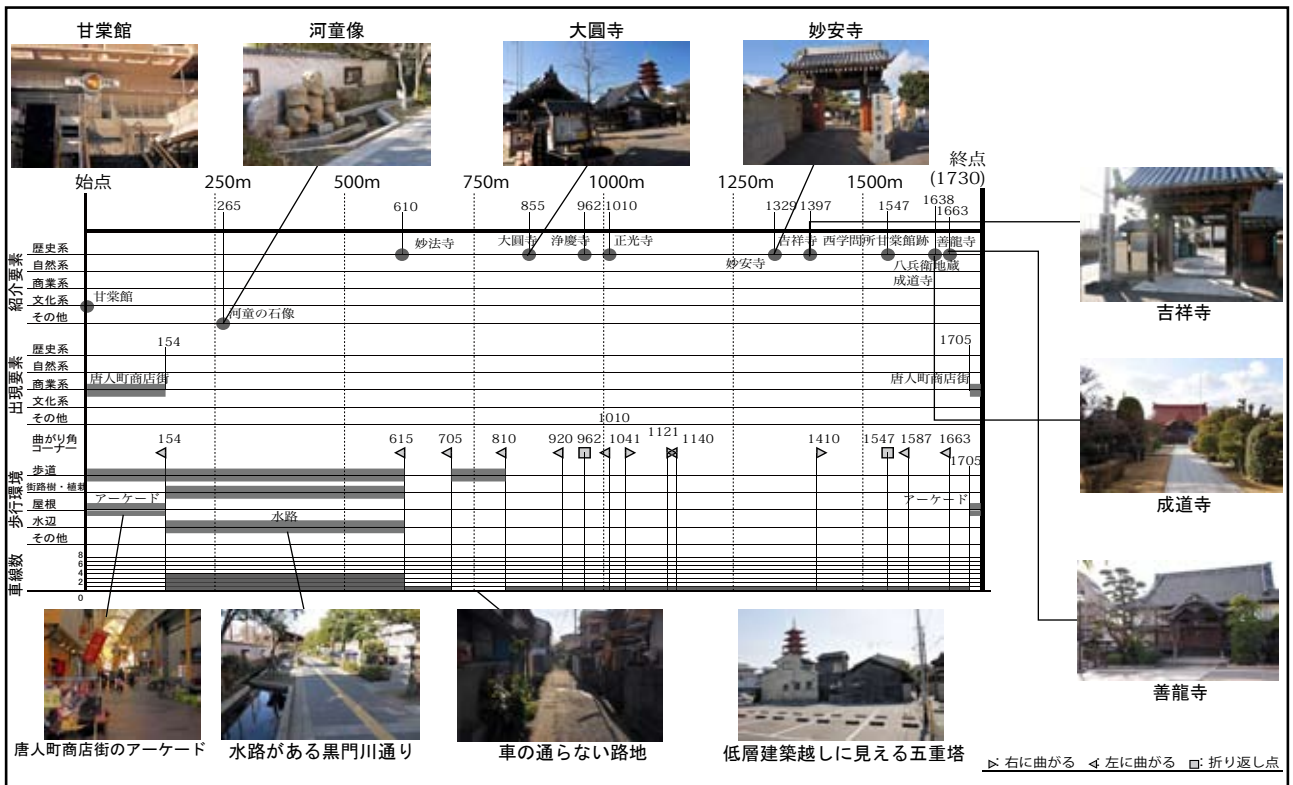


図3 唐人町城下まちコースチャート

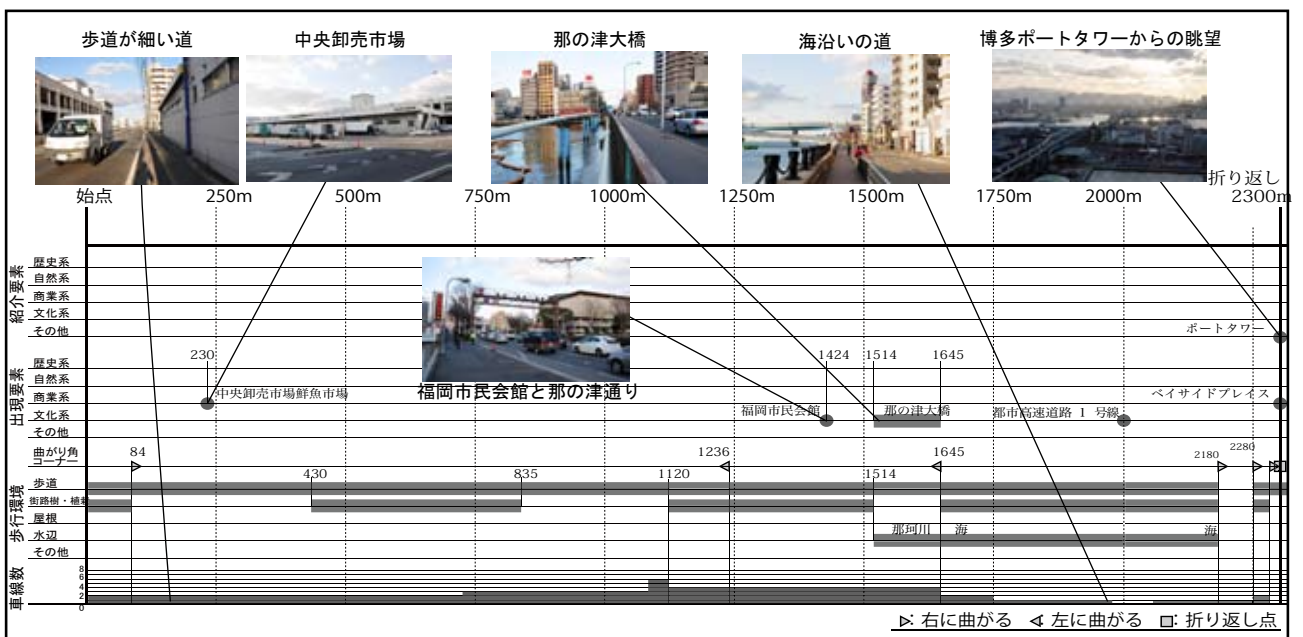


図4 海風コースチャート

向転換の回数が少ないのもこのためである。

6 まとめ

まち歩きマップを収集し、掲載されているコースについて分析することで以下の内容が明らかになった。

- 1) コースの形態は始点と終点が一致する回遊型で、全長は2～4kmが最も多かった。
- 2) コースの目的地や立ち寄り場所として統計的には動植物や水辺といった自然、神社や寺のような伝統的建造物が設定される場合が多いが、個々の内容は地域固有のものが取り上げられている。

- 3) ルート設定のタイプは、5つに分類できるが、神社仏閣など特定テーマに沿った要素を巡るタイプ、文化財や展望台といった目的地となる場所とそこに至るまでのわかりやすい経路を歩くタイプ、公園や浜辺など歩くのに安全で快適な場所を取り入れるタイプの3つが基本となる。

注1) 福岡市への通勤依存率5%以上のエリア